

琉球大学学術リポジトリ

平成28年度トータル支援活動について

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学教育学部附属発達支援教育実践センター 公開日: 2017-06-23 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 浦崎, 武, Urasaki, Takeshi メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/36896

平成28年度 トータル支援活動について

浦崎 武*

Fiscal Year 2016 The Total Support Project

Takeshi URASAKI

琉球大学教育学部附属発達支援教育実践センターでは2006年10月より実践トータル支援活動がスタートし本年度で10年が過ぎた。昨年度末、海に関する企画を中心とした最初の「トータル支援」に関する著書が出版された。さらに来年度はトータル支援活動の10年間をまとめた著書が出版される。今までの取り組みの評価と今後のさらなる発展に向けてのビジョンが必要とされる。

「トータル支援教室」を中心的な事業として、今まで10年半で165回の企画案を実践してきた。「トータル支援教室」は地域の子どもたちが支援を受け、保護者の子育てを応援し、現職教員、保育士、支援員、関連領域の専門家のリカレント教育の機会を提供し、大学院生や学生に実践教育の場を与え、行政などと協力して地域に貢献し、実践研究を深める支援を行っていることで、「トータル支援教室」と呼んでいる。また、子どもたちとの関わりを通して子どもの特性を多角的に捉え、支援教育の多様性を追求し総合的に支援していく上でも「トータル支援教室」と呼んでいる。この教室は個別支援、集団支援、学校および教育機関との連携支援、子育て支援という4つの柱から成り立っている。活動への参加者は子どもたちを支援することにより子どもたちから発達支援、教育実践を学ぶ。その活動の終了後、子どもたちとの関わりによるエピソードを具体的にとりあげ、反省会を行い、そして、その後、参加メンバーみんなで行う交流ミーティングを通して子どもたちの理解および支援のあり方を深めている。

当センターでは21年度に「特別研究員制度」

を開始しその制度を活用した特別研究員の活躍によりセンター活動をより充実させてきた。特に23年度よりセンターの特別研究員(武田喜乃恵)が常駐することができたこともあり、充実した地域貢献活動、教育および研究活動を行うことができるようになった。本年度まで崎濱朋子(読谷村立古堅小学校校長)、瀬底正栄(浦添市沢岬小学校教諭)、武田喜乃恵(発達支援教育実践センター相談員)、大城麻紀子(沖縄県立鏡が丘支援学校教頭)、久志峰之(那覇少年鑑別所)、本間七瀬(石垣市立新川小学校教諭)、運道恵理子(石垣市立新川小学校教諭)、入嵩西清幸(石垣市立大浜中学校教頭)、富盛さゆり(KBC学園エルケア医療保育専門学校)9人の特別研究員が子どもたちへの支援をするとともに子どもたちから実践を学んできた。

定期的なトータル支援活動として「トータル支援教室(集団適応教室)」を月二回、教員、学生および発達支援教育に関する専門家を交えて「実践事例研究会」を月一回、また教員や保護者を対象にした「相談支援」、子どもたちに継続的なサポートが必要であれば定期的に支援を行う「個別支援」等を行ってきた。大学を拠点とする定期的なトータル支援活動は様々な事業の基盤をなす取り組みとなっており具体的な地域協働活動のネットワークの要となっている。

センターの支援活動は11年目に入り、その支援論について学齢期から幼児期に焦点を当てたトータル支援の論文が中心となった。「自閉症スペクトラム障害児の自己同一性の形成の解明と学齢期の関係発達の支援の開発—幼児期からの関係発達の支援および教育実践への可能性—(浦崎武・

* Faculty of Education, Uni. of the Ryukyus

武田喜乃恵)、「遊び」を通した幼稚園教育実践の幼・小一貫教育に向けた可能性—幼稚園教育の5領域の編成と「トータル支援」を通した幼児教育への方法論的検討—(武田喜乃恵・浦崎武)、「幼稚園教育におけるトータル支援の要素を取り入れた教育実践の一考察—紙ひこうき遊びを5領域に照らし合わせて—」(武田喜乃恵)」と題して論文にまとめた。

また、小学校における共同研究実践について「チームとしての学校と協働によるともに楽しむ授業づくり—専門機関との連携・協働を通して—(崎濱朋子・武田喜乃恵・浦崎武)」、「チームとしての学校を基盤としたともに楽しみともに学び合う学級づくり—専門機関との協働による子どもたちの「向かう力」を育む教育実践(崎濱朋子)—」、「多様な子どもたちと「ともに楽しむ」授業と教師の教育実践の新しい展開—活動企画「まちをつくって遊ぼう」を通した協働の授業づくり」(瀬底正栄・武田喜乃恵・浦崎武)を論文にまとめた。さらに特別支援学校の実践について「長期入院をしている児童のADLを高め「向かう力」を育む指導・支援—トータル支援の理念をもとにしたM児への指導・支援実践から—」(大城麻紀子)、さらに学校教育に関わらず、少年鑑別所の処遇に関して、「トータル支援教室の視点から見る少年鑑別所の処遇—少年鑑別所の処遇を充実させるための共通点の理解—」(久志峰之・浦崎武)を論文にまとめた。

地域拠点型の八重山の地域スタッフが中心となった「トータル支援教室 in 八重山」は6年目を迎えた。3年目が過ぎた宮古教育事務所と宮古福祉事務所の共催に支援プログラムも動き出してきて、実用的な取組の可能性を探るようになった。また、那覇教育事務所の協力により久米島支援、国頭教育事務所、島尻教育事務所の取組もスタートするなど、県教育委員会との連携・協働が発展している。また、各地域の事務所の管轄での公開講座やサテライト配信をする等、地域間の取組も発展してきた。

本年度も琉球大学を会場とした一日キャンプは中頭教育事務所との共催により域連携活動へと発展して3年目を迎えた。積極的に離島・へき地に出向き地域の土壌に触れながら子どもたちや発達支援教育に携わる先生や支援者と関わり、ともに学び合うことができた。

昨年度、実施した「海プロジェクト(日本財団)」では、5年間までの取り組みについて1冊の書籍を出版することができた。さらに、来年度には

2冊目の出版をする予定である。

大学中期計画実現のための「障害児・者の支援・教育に関わる学生・教員の実践力養成機能の充実と地域の学校や教育行政機関との協働支援を行う地域拠点の構築」と題する事業を行った。特に中期計画実現へ向けて、トータル支援活動が地域支援へと展開を目指して、昨年度までの「トータル支援教室 IN 八重山」、「トータル支援教室 IN 宮古・多良間」、「トータル支援教室 IN 中頭」に加え、「トータル支援教室 IN 島尻」、「トータル支援教室 IN 那覇」、「トータル支援教室 IN 国頭」における取組が始まり、県内6圏域の教育事務所との共催を得るまでに「トータル支援教室」が広がった。

本年度も一昨年から続く「ちゅら島の未来を創る知のかけ橋」事業により地域志向教育推進経費の助成を受けた。また、琉球大学後援財団の教育研究奨励事業による助成により11月に実施した公開セミナーを八重山、宮古、久米島の離島大学サテライトで発信することができた。6月と7月に実施した公開講座などを継続することにより、今後も離島・へき地との関係性をより強く継続的に発展させていく予定である。当センターの地域貢献への取り組みは県内、県外に認知され期待の高まりとともに、より一層の努力が求められていることを痛感した。

本紀要において当センターの本年度事業の実践研究の成果をまとめた。センターでの取組により、「自閉症スペクトラム障害児の自己同一性の形成の解明と学齢期の関係発達の支援の開発—幼児期からの関係発達の支援および教育実践への可能性—」(浦崎武・武田喜乃恵)、「トータル支援教室の視点から見る少年鑑別所の処遇—少年鑑別所の処遇を充実させるための共通点の理解—」(久志峰之・浦崎武)の論文を作成した。

各圏域およびで幼稚園や学校で実施してきたトータル支援教室における支援について、「チームとしての学校と協働によるともに楽しむ授業づくり—専門機関との連携・協働を通して—」(崎濱朋子・武田喜乃恵・浦崎武)、幼稚園教育におけるトータル支援の要素を取り入れた教育実践の一考察—紙ひこうき遊びを5領域に照らし合わせて—」(武田喜乃恵)、チームとしての学校を基盤としたともに楽しみともに学び合う学級づくり—専門機関との協働による子どもたちの「向かう力」を育む教育実践(崎濱朋子)、「多様な子どもたちと「ともに楽しむ」授業と教師の教育実践の新しい展開—活動企画「まちをつくって遊ぼう」を通した協働の授業づくり」(瀬底正栄・武田喜乃恵・

浦崎武)、「遊び」を通した幼稚園教育実践の幼・小一貫教育に向けた可能性—幼稚園教育の5領域の編成と「トータル支援」を通した幼児教育への方法論的検討—(武田喜乃恵・浦崎武)、「長期入院をしている児童のADLを高め「向かう力」を育む指導・支援—トータル支援の理念をもとにしたM児への指導・支援実践から」(大城麻紀子)を紀要にまとめた。

法論的検討—(武田喜乃恵・浦崎武)

トータル支援教室

集団支援と教育実践の実践研究

自閉症スペクトラム障害児の自己同一性の形成の解明と学齢期の関係発達の支援の開発—幼児期からの関係発達の支援および教育実践への可能性—(浦崎武・武田喜乃恵)

トータル支援教室の視点から見る少年鑑別所の処遇—少年鑑別所の処遇を充実させるための共通点の理解—(久志峰之・浦崎武)

長期入院をしている児童のADLを高め「向かう力」を育む指導・支援—トータル支援の理念をもとにしたM児への指導・支援実践から(大城麻紀子)

中期計画事業：地域協働プロジェクト—集団支援と学校の協働実践研究

チームとしての学校と協働によるともに楽しむ授業づくり—専門機関との連携・協働を通して—(崎濱朋子・武田喜乃恵・浦崎武)

幼稚園教育におけるトータル支援の要素を取り入れた教育実践の一考察—紙ひこうき遊びを5領域に照らし合わせて—(武田喜乃恵)

チームとしての学校を基盤としたともに楽しむともに学び合う学級づくり—専門機関との協働による特別支援学級での「向かう力」を育む教育実践(崎濱朋子)

「多様な子どもたちと「ともに楽しむ」授業と教師の教育実践の新しい展開—活動企画「まちをつくって遊ぼう」を通した協働の授業づくり」(瀬底正栄・武田喜乃恵・浦崎武)

「遊び」を通した幼稚園教育実践の幼・小一貫教育に向けた可能性—幼稚園教育の5領域の編成と「トータル支援」を通した幼児教育への方